

平成 20 年 1 月 23 日

東洋エンジニアリング株式会社

インドネシア 石油精製・石油化学統合プロジェクトを受注

東洋エンジニアリング株式会社(TEC、取締役社長 山田 豊)は、インドネシア国営石油会社プルトamina(PT PERTAMINA)から、インドネシアの大手エンジニアリング会社であるレカヤサ(PT ReKayasa Industri)と共同で、バロンガン製油所向けプロピレン増産プロジェクトを受注いたしました。

本プロジェクトは、ジャワ島西部チレボン近郊に位置するバロンガン製油所の流動接触分解装置(RCC)の排ガスを原料とし、年産 179,000 トンのプロピレンを増産するプラントを建設するもので、石油精製・石油化学統合プロジェクトです。

プルトaminaは巨額の投資資金を要する新規石油精製設備の建設に代わり、既存設備の改造によるプロジェクトを検討し、これはその一環となります。また、これまで燃料として利用していた排ガスを石化製品、なかでも需要の高いプロピレンの原料として利用することにより、コストミニマム且つ最大付加価値を目指したプロジェクトと言えます。

TECはインドネシアで過去 40 年間に亘り数多くのプロジェクトを実施しています。このバロンガン製油所では 2005 年に無鉛ガソリンを製造するブルースカイプロジェクトを完成しており、これらの実績が高く評価されたことが今回の受注に結びつきました。

インドネシアでは高い経済成長を背景にプラント需要が増しており、TECは今後もインドネシア市場に注力してゆく方針です。

< 受注概要 >

客先： インドネシア国営石油会社(プルトamina) PT PERTAMINA
受注者： TEC、レカヤサ(PT ReKayasa Industri)コンソーシャム
建設地： インドネシア、ジャワ島、バロンガン
対象設備： プロピレン製造設備 年産 179,000 トン
関連付帯設備
摘要技術： 米国ルーマス社 OCT(Olefins Conversion Technology)プロセス
役務内容： 設計、機器資材調達、工事、試運転助成までの一括請負
完成予想： 2010 年中頃

契約金額： 約3億ドル
受注の意義： * プルタミナからの2件目のプラント受注
* 長年のパートナーであるレカヤサとの共同受注案件
* インドネシアで初のOCTプロセス採用

以上

<お問合せ先> 東洋エンジニアリング株式会社 広報室・渡辺 TEL:047-454-1113